

2024 年度人文社会科学部後援会支援事業報告書

申請者：星純子

事業区分：学生の教育研究活動支援

事項：実地学習（笠間市役所ほか）への交通費補助

期間：2024 年 7 月—12 月

対象学年：3 年次 2 人（うち支出者 92 人）

内容 報告項目：社会調査演習IV実地調査（星担当学生分）

報告内容：以下に記述

1. 活動目的

2020 年以降、新型コロナウイルスは人々の移動を大きく制限した。では子育て支援やツーリズムはどのように変わったのか。この授業は 2020 年のコロナ禍以後マイクロツーリズムで隆盛を見せる笠間市に注目して、コロナ禍における観光の在り方の変化、子育て支援の現状を考察した。

これを達成するため、社会調査演習IVの一環として調査を行った。

2. 活動内容と成果

授業では、観光班と子育て班に分かれ、調査を行った。観光班は、主に栗をテーマとしたマイクロツーリズムに焦点を当て、市役所や飲食店、コンサルにて調査を行った。子育て班は市役所や指定管理制度を用いて市役所の施設を運営する子育て支援 NPO に関する調査を行った。

調査の一環として、先行研究の検討、問題設定、インタビュー先選定ののち、学生が企画して笠間市役所の複数の課、ファミリーサポートセンターなど合計 6 件にインタビューを行った。それらの交通費に後援会費を充当した。

調査の結果、第一に観光班は笠間市で旧来の中高年向けの笠間稲荷や美術館などのターゲットにかわり、栗が若年層から中高年まで幅広く引き付けるコンテンツとしてテレビ番組や消費者に注目されていることを発見した。それは笠間市がこの 10 年来取り組む栗の品質化の動きの成果である。加えて、笠間市は元来東京からそう遠くない位置にあり、マイクロツーリズムと呼ばれる近距離観光の推進に関してはかなりコロナ禍においてもポテンシャルを持ったため、笠間市の取り組みがコロナ禍にも乗って結実した形となっている。

第二に、子育て班は笠間市の児童館を指定管理者として運営するファミリーサポートセンターや市役所、また比較の対象として常陸太田市の児童館にもインタビューを行った。ファミリーサポートセンターは子育て世帯用の施設を運営しているが、それは来館者どうしの組織化にはつながりにくく、また来館者もそれを求めている。一方で、市役所の支援は保健指導以外は DV や児童虐待など生命の危険がある世帯への支援が主で、その他大勢へ

の支援は薄いことが分かった。

3. 訪問先の一部

上記訪問先での写真を以下に載せる。

カサマロンカフェでのインタビュー



このたびの調査で、現場の雰囲気や当事者の会話など貴重な機会を頂きました。後援会費からのご支援により交通費の一部を補助していただき、感謝申し上げます。